

私は、質問というよりは、何点か、指摘と御要請をしたいと思っております。まず最初に、水産の関係で、小型トロールの関係でありませけれども、1980年代に、ヨーロッパ、特に北欧においては、資源がかなり枯渇してきたということから、小型船の技術改良が物すごく進められてきました。その際に、日本の漁業技術者は、水産国、日本であっても、その技術が随分とおくれてきているのじゃないかというふうに認識した経緯がございます。

そうした中で、今、ヨーロッパでは、かなり資源回復をしてきているという話もありますが、その折に、中古の小型トロール船が東南アジアに輸出された、それが、かなり乱獲の要因になるのじゃないかなという危惧もあったわけであります。

特に、日本海においては、対馬の海域は日本の好漁場でありますけれども、韓国では、小型トロール船をコテグリと言うのですか、これが、違法で禁止されている漁法なのですが、物すごく、船団で行って、日本の海上保安庁も手を焼いているぐらいの実態であります。小型トロールでやると漁獲の確率がかなり上がる、そんなことだと思うので、こういう漁法になっているのだと思います。

しかし、水産に携わっている皆さんはよく知っていると思うのですが、日本海の武蔵堆の様子はかなり変わって、真っ平らになってきて、漁場の体をなしていないというお話も漁業者から聞いていると思います。

そんなことで、小型底引き漁が近海で行われたときに、本当に資源が大丈夫なのかなというふうに思うわけであります。

ただ、所得を上げたいから、一部の漁師の方からいろいろとお願いが来ると思いますが、私は、百歩譲って、きちっと資源を確保しながらやれるような小型トロールの技術改良ということ、日本の技術の推移を見ながら、やっていけたらなという思いもあります。

漁業者の御意見を聞きながら進めるということでもありますので、そんなことをしっかりお考えになりながら進めていただきたいと思います。

また、磯焼けに対しては、本当に随分やっているのだけれども、本当にいらいらしています。

これは全世界的な問題になっているのです。カリフォルニア沿岸、カナダ、アラスカ、ノルウェー、ニュージーランドからオーストラリアまで、世界各国で起きています。

どうですか、この際、北海道において、いろんな知識を蓄積するためにも国際会議を開かれてはどうか。これは知事が得意とするところであると思いますので、世界に声をかけて、有能な学者を集めていただきながら議論されてはどうか、こんな御提案をしたいと思っております。

それと、人工海底山脈についてはお金がかかります。数十億円の投資を要するというでありますけれども、長崎県ではもう延々とやっているわけですよ。

四、五十億円をかけているという話であります。これは、子々孫々、大きな財産として残るわけですから、ぜひ、進める方向で御検討を願いたいと思っております。それと、環境政策に関して、住宅ストックの問題については、国にもいろいろな

支援策を御要望されるということではありますが、昨年暮れに、木づかいカーボンストック減税というのが林野庁から提言されました。これは、ちょっと置いておかれているのですが、1棟当たり5万6000円ぐらいの補助だったと思います。これも推進できるように、ぜひ、国にしっかりと働きかけていただきたい。

それとともに、北海道の住宅ストックは、世帯数から比べると結構多いと聞いていますので、新築住宅は減るかもわからないけれども、リフォームに関する補助の支援拡充をぜひ図っていただきたい、そんなふうに思います。

そして、私のメインテーマでありました電力移出県等交付金の件についてでございます。

ただいま、大変いい御答弁をいただきました。思い起こせば、平成16年の2定で非常にシンプルな御答弁をいただいて、落胆した思いが去来しているのでありますが、やっと、この思いが大願成就し、5年の恋い焦がれた思いが今実った、そんな感じがいたしているところであります。

これまで、知事を筆頭に、経済部長さん、経済部の皆さんに、国との対応をしっかりしていただきました。

おかげさまで、こうした結果を得ることができたと思っております。ただ、実際にお金を見るまでは安心できませんので、私もしっかりとやっていきたいと思っております。

そこで、これまで国とも議論をしてきた経緯といったものがありますので、ぜひ、先ほどの御答弁のように、有効な予算執行をお願いしたいと思っております。

そして、研究や医療機関に関する御答弁もいただきました。国が許容できるか、そんなことも考えながら、いろいろ検討したいということではありますが、今ここに実例がありますよね。

電力移出県等交付金はまさかもらえるわけではないと思っていたはずですが、それが、今、こうして出る運びになったのですから、一つ一つしっかりとハードルを取り除いていけば、できないことはない、なせばなるというふうに思っているわけでありまして。

「愚公山を移す」の例えのごとく、一つ一つ障害を乗り越えていけば、こうしたことも決して夢じゃないと思っておりますので、さらなる道庁の皆さんのお力添えをいただき、国に対して勝負をしていただきたいと思っております。そのことを申し上げ、質問を終わります。

ありがとうございました。